

訓練通じ役割を理解

災害ボランティアセンター立ち上げ機能訓練

たすけあいチームなど参加

美幌町社会福祉協議会は大規模災害発生時、全国から集うボランティアの受け付けや活動先の決定など、司令塔的な役割を担う「災害ボランティアセンター」を運営する。9月29日には町民会館で、同センターを運営できる人材育成を目的とした小規模運営訓練(立ち上げ機能訓練)が行われた。

今後は冬季訓練も

災害ボランティアセンターは、美幌町と美幌町社協の設置・運営に関する協定締結により、大規模災害が発生した際の被災者への個別支援を目的に開設される。被災者の救助や避難所的な運営ではなく、災害発生後の被災者の生活支援ニーズに對して、全国から集まる災害ボランティアの活動

を支援する役割を担うのが特徴だ。

災害ボランティアセンターには被災者からがれきの撤去や泥出し、部屋の掃除、物資や衣類の仕分けなどさまざまな依頼が寄せられる。しかし各地から集まるボランティアの多くは美幌町の地理や地名が分からず「〇〇町の〇〇さん」といわれ

ても動くことができない。ボランティアの行動を決め、さらに必要な資材や道具の準備を行うの

が災害ボランティアセンターの役割となる。立ち上げ機能訓練は、災害ボランティアセンター運営委員会(太田博美委員長)が主体となり実施。訓練には美幌町自治連福祉部会やたすけあい



災害ボランティアセンターの役割を確認した立ち上げ機能訓練

チーム活動推進協議会、一般ボランティアなど約40人が参加した。

訓練は被災者から寄せられたという設定のボランティア依頼書を参考に「これは自分ならできない」という支援に手を挙げて参加。実際の災害時に自身が災害ボランティアの活動を指示できるよう受け付けからマッチング、必要な車両・資機材の準備などの手順を確認していた。

同運営委員会の太田委員長は「災害ボランティアセンターは被災者が普通の生活に戻るためのお手伝いが目的。実際の現場ではスムーズなセンター運営は難しいが、訓練を重ねて有事に慣れておくことが大切」と話す。今後は豪雪を想定した立ち上げ訓練なども行う方針だという。